

横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成27年10月号 目次

【トピックス】

平成27年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)	1
遺伝子組換え食品の検査	4

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月	6
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	10
---------------------	----

平成27年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7～9月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成27年7月から9月の種類同定検査件数は、10件でした。内訳は昆虫類9件(チャタテムシ目3件、コウチュウ目3件、ハチ目3件)、その他の節足動物1件(ダニ目1件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
洗面台のキャビネット内に虫がみられた	 成虫、乳白色～淡黄色、約1.0～1.3mm	ヒラタチャタテ (チャタテムシ目)	穀類や貯蔵加工食品(乾めん、ビスケット、干し魚など)、わら製品、ダンボール等広範囲のものを加害する。完全単為生殖のため雌のみが存在する。多湿を好み、カビを食べる。屋内に生息する最も普通の種である。
システムキッチンに多数の小さな虫がみられた	 成虫、黄白色、約1.5mm	チャタテムシ目の一種 (チャタテムシ目)	雑食性の昆虫で、穀類や貯蔵加工品、わら製品、ダンボールなど広範囲のものを加害する。多湿を好み、屋内で生活する種類は木や竹、畳などに生えるカビを食べる。
住居の2階の天窓周辺部に虫が多数みられる	 成虫、褐色、約1.5mm	①チャタテムシ目の一種 (チャタテムシ目)	①同上
	 成体、褐色、約0.5mm	②ササラダニ類の一種 (ダニ目)	②自然界の土壤中に生息するダニ類。落葉、落枝、腐葉、朽木などを食物とする。有機物を含む土壤に生息する。ヒトを刺咬することはない。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
住居内に虫が みられた	 <p>成虫、黄白色、15mm</p>	シロコブゾウムシ (コウチュウ目)	成虫は5～8月にあらわれ、ハギ、フジなどマメ科植物に多くみられる。
乾燥シイタケから出ていると思われる虫が住宅内に多数みられる	 <p>成虫、褐色、約2mm</p>	ヒラタムシ科の一種 (コウチュウ目)	ヒラタムシ科の多くの種は朽木、樹皮下に生息する。一部の種は貯穀害虫で、穀粉などを食害する。乾燥シイタケの大害虫としてハウカムネヒラタムシが知られている。
店舗内に小型の虫が多数みられる	 <p>成虫、黒褐色、約1.8mm</p>	ハネカクシ科の一種 (コウチュウ目)	生態的に多種多様で、食植性、食腐性、食肉性、他の動物に共生、寄生する種もみられる。成虫は早春から晩秋にわたり出現する。分布域は極めて広いが、主として河原などの厨芥や石の下などに多くみられる。習性や生活史は未知のものが多い。
室内の床や庭に複数のアリがみられる	 <p>働きアリ、黒褐色、約2.5mm</p>  <p>雄有翅虫、黒褐色、約4mm</p>  <p>雌有翅虫、黒褐色、約7mm</p>	①トビイロケアリ (ハチ目) ②ヤマアリ亜科 (ハチ目)	①平野部の草地から林内に最も普通に見られる。巣は土中、朽木の中。結婚飛行は7月から8月。 ②本科は、温帯地方では大型で活発な種類を含み、地上活動性の種も多い。営巣場所は多くの種では地中である。

相談内容・ 発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
住宅内に虫が 多数飛び回っ ている	 <p data-bbox="391 526 710 560">雄有翅虫、黄褐色、約2mm</p>	フタフシアリ亜科 (ハチ目)	アリ類は決まった時期、無数の有翅虫(雌雄成虫)が結婚飛行のため巣から飛び立つ。種類によって結婚飛行の時期は異なる。雄成虫は飛行を終えた後に、灯火に誘引され、多くの個体が窓際に飛来して家屋内に侵入し、不快害虫となることが多い。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

遺伝子組換え食品の検査

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され、承認されたものが国内で生産・輸入・販売等が可能になります。遺伝子組換え食品の検査は、承認済みのものについては食品中に遺伝子組換え食品が何%含まれているかを調べる検査(定量検査)を行います。一方、未承認のものについては食品中に遺伝子組換え食品が含まれているかどうかを調べる検査(定性検査)を行います。

平成27年度は、5月と9月に各区福祉保健センターが収去した60検体について、遺伝子組換え食品の定量検査と定性検査を実施しました。

1 定量検査

「遺伝子組換え大豆使用」の表示がない大豆加工品および大豆穀粒20検体について、遺伝子組換え大豆3品種(RRS、LLS、RR2^{*1})の定量検査を行いました。その結果、レトルト食品1検体は定量不能^{*2}でしたが、その他は混入率が5%^{*3}を超えるものはなく、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 RRS、LLS、RR2の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体数	定量不能
豆腐	日本	17	0	0
豆乳	日本	1	0	0
レトルト食品	日本	1	—	1
大豆穀粒	日本	1	0	0
計		20	0	1

*1 RRS、LLS、RR2は、いずれも日本で承認済みの除草剤耐性を持つ大豆の品種です。

*2 定量不能とは、本来検出されるべき内在性遺伝子が定量可能な量に達していないため、定量ができない場合をいいます。この原因として、加熱や加圧等の加工処理中に遺伝子が分解してしまうことが考えられます。

*3 承認済みの遺伝子組換え食品は、混入率が5%を超えると「遺伝子組換え」である旨の表示が必要になるため、検査では混入率が5%を超えているかどうかを調べます。なお、混入が起これないよう管理していたことが書類等で確認できない場合、「遺伝子組換え不分別」である旨の表示が必要になります。

2 定性検査

(1) トウモロコシの検査

トウモロコシ加工品20検体について、遺伝子組換えトウモロコシ1品種(Bt10^{*4})の定性検査を行いました。その結果、いずれも不検出であり、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 Bt10の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
菓子類	日本	15	0
かん詰食品	タイ	2	0
	日本	1	0
トウモロコシのひげ茶	日本	1	0
スープの素	日本	1	0
計		20	0

*4 Bt10は、除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子組換えトウモロコシの品種です。日本では未承認のため、食品衛生法により販売等が認められていません。

(2) コメの検査

コメ加工品20検体について、遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI^{*5})の定性検査を行いました。その結果、いずれも不検出であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 63Bt、NNBt、CpTIの検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
米粉	日本	8	0
ライスペーパー	ベトナム	3	0
	日本	2	0
麺類(ビーフン等)	台湾	3	0
	ベトナム	2	0
とっぽぎ	日本	1	0
	アメリカ	1	0
計		20	0

*5 63Bt、NNBt、CpTIは、いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子組換えコメの品種です。日本では未承認のため、食品衛生法により販売等が認められていません。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月

《今月のトピックス》

- 手足口病の流行はピークを過ぎましたが、警報レベルが続いています。
- RSウイルス感染症の報告が急激に増加しています。

全数把握の対象

【9月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	11件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
E型肝炎	1件	ジアルジア症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
デング熱	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	5件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	風しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件		

- 腸管出血性大腸菌感染症**:11件の報告がありました。感染源の食品が明確になった食中毒などの事例はありませんでしたが、肉を十分加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)して食べるなど、予防対策が重要です。また、本疾患は家族内での2次感染も多く見られるため、予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- E型肝炎**:50歳代の報告が1件ありました。シンガポールでの感染か、国内での鳥レバー喫食による感染が推定されています。東南アジアでは水系感染による感染が多く、国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食が関連しています。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食する場合には十分加熱することが大切です。[国立感染症研究所](#)によると、E型肝炎となった場合、致死率は一般の人々でも1~2%で、さらに妊婦では劇症肝炎の割合が高く、致死率が20%にも達することがあり、注意が必要です。
- A型肝炎**:50歳代の報告が1件あり、国内での経口感染が推定されています。本疾患は上下水道の整備不十分な発展途上国への渡航時の感染が以前は多く見られましたが、近年国内感染例が増加しています。[感染症発生動向調査の集計](#)によると、国内での感染の特徴は、牡蠣やなんらかの飲食物(おそらく海産物)が主要な感染源で、罹患年齢が高年齢化しており、子供の感染では症状が軽い、高齢者では重症化しやすい、などの特徴が見られます。
- デング熱**:3件の報告のすべてに海外渡航歴(モルディブ、フィリピン(マニラ)、東ティモール)がありました。
- レジオネラ症**:肺炎型5件の報告がありました。明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症5件(国内感染例4件、感染地域等不明1件)の報告がありました。国内感染例のうち、1件は異性間性的接触による感染、もう1件は経口感染、残る2件は感染経路不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:3件の報告がありました。院内集団感染等はありませんでした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:1件の新生児の経産道感染による報告(血清型:B群)がありました。全身状態は安定しており、軽快しました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:無症状病原体保有者2件、AIDS 1件の報告がありました。うち2件は国内での感染(同性間および同性間・異性間性的接触)で、もう1件は感染地域不明ですが同性間・異性間性的接触による感染が推定されています。
- ジアルジア症**:1件の幼児の報告があり、国内での水系感染が推定されていますが、明確な感染源は不明でした。[国立感染症研究所](#)によると、ジアルジア症は典型的な糞口感染で、嚢子で汚染された食品や飲料水を介して伝播します。嚢子は感染力が強い(ヒトでの実験では、10~25個の嚢子の摂取により感染が成立)ため、排泄者に対しては排便後の手洗いの指導が重要です。嚢子は水中で数か月程度は感染力が衰えず、浄水場における通常の浄水処理で完全に除去することは困難とされており、塩素

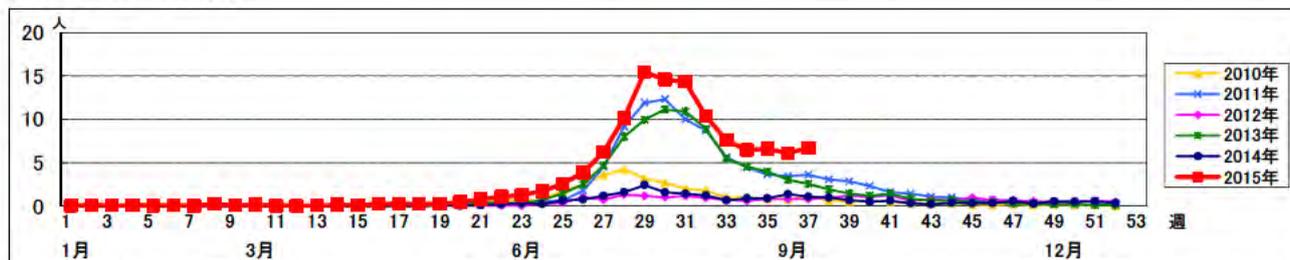
消毒にも抵抗性を示します。したがって、HIV感染者をはじめとする免疫機能低下者は、日常生活の上で生ものや煮沸消毒されていない水道水の摂取などには注意が必要です。

- 11 侵襲性インフルエンザ菌感染症:3件の報告(20歳代、60歳代、80歳代)がありました。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症:1件の幼児の報告がありました。予防接種歴は確認できませんでした。
- 13 水痘(入院例に限る):40歳代(予防接種歴なし)の届出が1件ありました。
- 14 梅毒:5件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期2件(50歳代男性、30歳代女性)、早期顕症梅毒Ⅱ期1件(40歳代男性)、先天梅毒1件、無症候期1件(20歳代女性)の報告がありました。感染経路では、国内での異性間性的接触2件、同性間性的接触1件、母子感染1件、針等の鋭利なものの刺入による感染1件でした。
- 15 風しん:幼児の臨床診断例が1件(ワクチン接種歴1回有り)の報告がありました。[先天性風しん症候群](#)予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、①妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、②妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、③妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

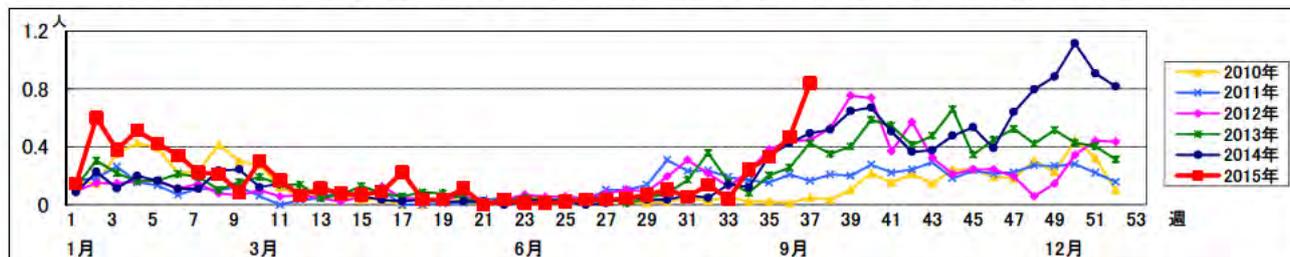
定点把握の対象

- 1 手足口病:今シーズンは過去10年間で最大の流行となりましたが、第37週は市全体で定点あたり6.68と、流行のピークである第29週15.39からは低下しましたが、横ばい状態が続いており、引き続き警報レベル(警報発令基準値5.00、終息基準値2.00)です。区別でも16区で警報レベルです。市内の患者からは、シーズン初めにはコクサッキーウイルスA16(CA16)、途中からはコクサッキーウイルスA6(CA6)が検出されています。ウイルスの型が異なると、同じシーズンに2回手足口病に罹患する例もあるので注意が必要です。CA6による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患1~2か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。

平成27年 週一月日対応表	
第35週	8月24日～8月30日
第36週	8月31日～9月 6日
第37週	9月 7日～9月13日



- 2 RSウイルス感染症:第37週は市全体で定点あたり0.84と急激に増加しており、注意が必要です。



- 3 性感染症:8月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が15件、女性が1件でした。
- 4 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第35週2.00、第36週1.33、第37週2.00と、継続して報告されています。無菌性髄膜炎の報告が35週に1件ありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 基幹定点月報:8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点1件、眼科5件、基幹定点7件で、定点外医療機関からは3件でした。

10月8日現在、ウイルス分離1株と各種ウイルス遺伝子20件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	R S 感 染 症	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	急 性 脳 症
アデノ 3型	1					
パラインフルエンザ 3型		2				
RS			2			
ライノ		1				
エンテロウイルス 68型		2				
コクサッキー A6型	3			8		
コクサッキー A9型						1
コクサッキー A10型					1	
合計	1 3	5	2	8	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎は、基幹定点から7件、その他が12件で、赤痢菌(*S. sonnei*)が1件、腸管出血性大腸菌(O103:H2、O145:H-、O157:H7、O157:H-)が11件、サルモネラ(*S. Saintpaul*、*S. Dublin*、*S. Braenderup*、*S. Enteritidis*)が4件検出されました。

その他の感染症は小児科定点から4件、基幹定点から2件、その他が27件で、A群溶血性レンサ球菌T型別不能1件と、B群溶血性レンサ球菌2件、G群溶血性レンサ球菌1件は劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は1群と5群がそれぞれ1件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	9月			2015年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌			1		1	2
腸管出血性大腸菌			11		1	60
腸管毒素原性大腸菌					1	
チフス菌						1
パラチフスA菌					6	5
サルモネラ		4			57	3
カンピロバクター						2
コレラ菌						1
不検出	0	3	0	2	24	14

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	9月			2015年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1				3		6
T4				4		
T6				1		
T12	1			2		
T28				2		3
T B3264				1		1
型別不能	1		1	18		3
B群溶血性レンサ球菌			2			2
G群溶血性レンサ球菌			1			5
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		2			9	40
バンコマイシン耐性腸球菌					1	2
<i>Legionella pneumophila</i>			2			6
インフルエンザ菌			2			11
肺炎球菌			2		1	72
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌			1			1
結核菌						153
百日咳					1	2
その他			5		13	40
不検出	2	0	11	8	2	37

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成27年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成27年9月)

平成27年9月の総アクセス数は、92,749件でした。主な内訳は、感染症情報センター72.2%、保健情報6.6%、生活環境衛生3.6%、食品衛生3.5%、検査情報月報3.2%、薬事0.6%でした。

(2) アクセス順位 (平成27年9月)

9月のアクセス順位(表1)

表1 平成27年9月 アクセス順位

は、第1位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症」、第2位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第3位が「A群溶血性連鎖球菌感染症について」でした。

9月の総アクセス数は、前月に比べ6%ほど減少しました。今月の1位のB群レンサ球菌(GBS)感染症は、[健康な妊娠・出産のために注意したい感染症](#)の一つです。

2位のクロストリジウム-ディ

フィシル感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。3位のA群溶血性連鎖球菌感染症は、しばしば、のどや皮膚に見られるA群溶血性連鎖球菌が原因です。今年は、全国的に感染が多い傾向にあります。咽頭炎(のどの炎症)や膿皮症(皮膚の炎症:伝染性膿痂疹(とびひ)とも呼ばれる)などの症状を起こすことがあります。4位の「EBウイルスと伝染性単核症について」は、EVウイルスによってひきおこされる伝染性単核症について解説したのですが、キスによる感染が有名です。

順位	タイトル	件数
1	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,375
2	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,280
3	A群溶血性連鎖球菌感染症について	2,981
4	EBウイルスと伝染性単核症について	2,483
5	衛生研究所トップページ	2,253
6	横浜市感染症情報センター	2,191
7	ライノウイルスについて	1,846
8	サイトメガロウイルス感染症について	1,673
9	ぎょう虫(蟯虫)症について	1,544
10	エンテロウイルスについて	1,486

データ提供:市民局広報課

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「A群溶血性連鎖球菌感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/strepto1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成27年9月）

平成27年9月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成27年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
コンクリートの紫外線反射率について	1	感染症・疫学情報課
中国のワクチンについて	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成27年9月）

平成27年9月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 平成27年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 2日	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
9月 2日	◆パンフレット◆ B型肝炎はワクチンで予防！	掲載
9月 2日	流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)について	更新
9月 2日	平成27年 熱中症情報	掲載
9月 7日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成27年)【速報版】	更新
9月 8日	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	更新
9月18日	ペストについて	更新
9月28日	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】